

第5章

チャレンジ！ユニ★スポ（体験会ケーススタディ）

【企画概要】

当財団はこれまで「障害者スポーツを取巻く社会的課題」の調査研究事業を通じて広く社会に対し、環境改善につながる有益な情報を発信してきた。これら活動の中で、障害者スポーツの1つであるボッチャが、障害者向けに生まれた競技であると同時に幅広い年齢層や性差、運動能力、障害の有無に関わらず、誰もが他者との交流、多様性の理解など、今後、社会が求める共生社会実現に向けたスポーツ活用策としての有用性をもつことに着目した。昨今、東京 2020 パラリンピック開催に向けた社会的ムーブメントの高まりを受け、全国各地でボッチャ体験会が開催される状況である。しかしながら、当財団は本来、「スポーツ振興を通じたより良い社会の実現に寄与すること」が事業趣旨である団体であることから、単に障害者スポーツ普及策としてのボッチャ体験会に留まることなく、以下の項目を同時に有するケーススタディとして活動コンセプトを立案した。

ボッチャ体験会に加え、

- ① 障害者スポーツに関する知識の提供（学習機会）
- ② スポーツが苦手な人に対するスポーツの有用性、価値への理解浸透、意識変革
- ③ スポーツ普及を通じた障害者への理解促進、偏見などの減少
- ④ 社会的価値の醸成（学術的価値）

を有することを目指した。

その結果、これまでの調査研究事業を通じた関係のある公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会（以下、「県協会」）、筑波大学体育系 准教授 齊藤まゆみ氏の協力や指導を受け、「チャレンジ！ユニ★スポ」を企画した（以下、「ユニスポ」）。

ユニスポのネーミングは「ユニバーサル・スポーツ」の略として、今回の事業が「ボッチャを障害者スポーツとして前面に出すのではなく、誰もが仲良く、相互理解、多様性を理解し合えるユニバーサルな価値を有するスポーツとして活用する」ことを基軸とした点にある。

また、当財団は基軸となる3事業全てに「チャレンジ」の名称を使用していることから、チャレンジとユニスポをあわせた事業名としている。

ユニスポ実施にあたり、当財団と県協会の共同主催によるコラボレーション事業として、以下の内容とした。

まずは募集対象者として「当財団所在地の静岡県内の特別支援学級を有する小中学校に通う児童・生徒（障害者、健常者の区別なく参加可能）、教員」とした。これは常日頃、学校現場において障害者と共生する環境下にいる子どもたちや教員を対象とすることで、より現実味を持って、自分事としての体験機会となることを期待したものである。公募の結果、最終的に県内各地の募集対象となった小・中学校から全 15 校、約 1200 名の児童・生徒および教員が参加する大規模なものになった。

また、前述の①と④を満たすために、ユニスポ実施校に対して、体験会参加に先立ち、I'm POSSIBLE による事前学習の実施、さらには本事業に参加する児童・生徒の「障害者」や「障害者スポーツ」に対する意識変容を時系列で把握するアンケート調査を全 3 回実施した（1 回目：事前学習前、2 回目：事前学習を受講後に参加する体験会直後、3 回目：体験会参加後、2～3 ヶ月経過時）。

今回の活動はケーススタディであったが最終的に約 1200 名の参加者を得、学術的調査（意識変容調査）も同時に行うことができた。本企画の実現にあたり、ご尽力いただいた静岡県、県協会、静岡県障害者スポーツ指導者協議会および指導員の皆様、齊藤先生を初めとする当財団障害者スポーツ・プロジェクトメンバー、そして、本活動趣旨をご理解いただき様々な協力をいただいた静岡県内の学校関係者の皆様にお礼申し上げます。

【活動結果】

	日程	学校名	参加者数		
			児童生徒 (うち障害児)	教員	合計
1	9月18日(水)	浜松市立浜名小学校	106(4)	3	109
2	10月24日(木)	浜松市立上島小学校	162(12)	7	169
3	10月25日(金)	掛川市立中小学校	21(0)	1	22
4	10月29日(火)	静岡市立大里東小学校	39(4)	3	42
5	10月31日(木)	磐田市立大藤小学校	33(1)	1	34
6	11月5日(火)	浜松市立双葉小学校	30(6)	4	34
7	11月7日(木)	小山町立成美小学校	60(0)	2	62
8	11月11日(月)	静岡市立南藁科小学校	127(0)	6	133
9	11月13日(水)	磐田市立竜洋西小学校	96(1)	3	99
10	11月14日(木)	小山町立須走小学校	39(3)	3	42
11	11月21日(木)	浜松市立犬居小学校	18(1)	3	21
12	12月2日(月)	菊川市立小笠南小学校	106(3)	3	109
13	12月5日(木)	磐田市立磐田西小学校	87(2)	3	90
14	12月6日(金)	函南町立東中学校	128(1)	8	136
15	12月10日(火)	静岡市立清水袖師小学校	83(5)	4	87
合計			1135(43)	54	1189

【活動の様子】





【参加した児童・生徒の声】

(小学生のコメントより)

- ボッチャはケガをした人でもできるとわかりました。
- 体の不自由な人が楽しめるように工夫なども分かって良かったです。
- 障害者向けスポーツと聞いて、難しいのかなと思っていたけど、みんなで盛り上がりたり、協力しあえたりできて良かったです。
- 初めてやったのでボールを投げる力加減が難しかったです。簡単だと思っていたけど、やってみたら難しかったです。やっていると慣れてきて障害者とも一緒にやれるスポーツだと思いました。
- スポーツが苦手で、できるかな、って思ってやったらできて、楽しくなりました。その訳は、始めはスポーツが出来なくて不安だったからです。もう一回みんなでやってみたいです。
- やってみるととても楽しく簡単で「だれでもできる」という意味がわかってきました。
- 最初は簡単だと思ったけど、やってみるとジャックボール（的玉）に近づけるのは難しかったです。

- ・3年生から6年生までみんなで楽しめたので良かったです。差があまりなくできるスポーツということがわかりました。みんなのできるスポーツで楽しかったので、家族や兄弟みんなでやりたい。
- ・大人でもお年寄りでも、障害のある人でも楽しめることに感動しました。そして、障害のある人の手助けをしてみようかな、とも思いました。
- ・一番印象に残ったことは、協力です。ボッチャはみんなで協力をして、そして何才でもいいことにびっくりしました。他の競技にもチャレンジしてみたいです。

(中学生のコメントより)

- ・最初は難しそうだし運動が苦手な私には絶対無理だろうな、と思っていましたが、全然そんなことはなくて実際やってみると運動ができる、できないは関係なくて、上手くできると楽しいし達成感みたいなのがありました。一緒にやったチームの人に褒められてすごく嬉しかったです。いつのまにかあまり話すことのない人と話せたり、試合を見るのも楽しかったです。こうしてみるとボッチャはいろんな人と繋がれるスポーツなんだなあ、と実感しました。また、障害のある人と繋がるためのスポーツだと思いました。
- ・最後の一球まで何が起こるか分からないスリルがあるスポーツで、わくわくがとまりませんでした。全ての大人が上手なわけでもないし、運動の得意な人が絶対に上手なわけでもない、みんなが平等にできるのがとてもよかったです。
- ・最初は「ただボールを投げて白い球に近づければいい」と思っていたボッチャも、今では「このボールをどうやって近づけるか」と考え、「どうやったら点がとれるか」と悩みます。ボッチャは立派な“スポーツ”なのだとわかりました。ボッチャの選手たちは、こんな難しいスポーツを、日本を背負ってやっているのかと思うと尊敬せずにはいられませんでした。
- ・特に心に残っているのは、先生方と生徒がボッチャの対戦をして生徒チームが勝ったことです。年齢の差も性別もスポーツが得意不得意なども関係なく誰でも楽しめるスポーツだということ、けがや病気などで生きる希望を失っていた人たちなどの生きがいになれるボッチャはすごいなと思いました。
- ・色んなチームと試合をして、それぞれのチームの作戦を次のチームとの試合で用いたり、チームの仲間の応援をしたり、みんなで協力して勝てたときはうれしいし、負けたときは悔しい。学年の絆を深めるとてもいい機会となりました。今回の「ユニスポ」のボッチャを通じて、他のユニスポもやってみたいと思いました。また、オリンピック

クだけでなくパラリンピックも全力で応援しようと思いました。

- ・心に残っているのは、男女の壁です。普段、ほとんどの人が男女で会話をしています。ですが、ボッチャを体験させていただいたときは、普段の様子とは違っていました。男女の壁が全然なかったのです。互いにアドバイスをかけていたり、励ましあったり、どうすればいいか聞いたり・・・私はそれを見てびっくりしました。ボッチャは私たちのような子供たちを始め、いろんな人たちが楽しく遊べるものだと知りました。
- ・みんなでボールを転がして、説明で言っていた通り本当に「どんな人でも」楽しめていてすごかったです。年齢も運動神経も関係なくて、自分自身が本当に楽しめました。今まで、パラリンピック競技など自分には全く関係ない事だと思っていましたが、ボッチャ体験を通してパラリンピックを身近に感じる事ができました。
- ・私は体が不自由な人といっしょにスポーツをするにはルールを工夫したりと、難しいと思っていました。けれどボッチャの体験で考え方が変わりました。中学生と大人が戦ったり、手が不自由な人ともいっしょに楽しめたり、ボッチャは誰とでも楽しめるスポーツだということを実際に体験して知ることができました。そしてボッチャのように誰でも楽しめるスポーツを「ユニバーサル・スポーツ」というと学びました。他にもどんなものがあるのか探してみたいです。ユニバーサル・スポーツがもっと広く知られ、みんなでいっしょにスポーツができるような社会になってほしいです。
- ・日本ではまだ障害を持っている人たちへの偏見があります。心のどこかで私とこの人はちがう、と思ってしまうのでしょうか。しかし、ボッチャは例え車いすの人とでも体を動かせない人とでも平等に勝負ができる、というのに感激しました。バリアフリーという言葉がありますが、まさに壁がなくなるスポーツだなと思いました。運動が嫌いな私でも楽しくやれることが嬉しくなりました。

【今後に向けて】

今回、本事業に参加してくれた児童・生徒から回収した意識変容調査結果を分析してまとめ、次年度に社会発信していく予定である。また、ケーススタディとして取り組んだ事業であったが、実際の活動現場では今回のユニスポが多くの子どもたち、教員、障がい者スポーツ指導員から当初の想像を大きく上回る高い評価や事業継続希望の声をいただいております。今後は継続に向け、実施に不可欠な協力者の皆様と協議を行っていく予定である。

(尾鍋文光)